

自分で商品作り販売

デイサービスの高齢者

デイサービスに通う高齢者が、食品や農作物を手ずから作って販売し、社会と関わる取り組みが各地で行われている。得意なことを生かした能動的な参加が生きがいになっているようだ。専門家は「何歳になっても挑戦できる共生社会を具現化する試みだ」と評価する。

堺市東区の「ふるさぼーとデイサービスセンター堺店」では、70～90代の利用者約15人が5種類のメロンパンを作って販売、人気を博している。「作るのも楽しいし、お客さんが買ってくれるのが何よりうれしい」。パン生地を丁寧にこねながら話すのは、94歳の小西トキエさん。「お世



収穫した山盛りのイチゴを抱えて笑顔の高齢者ら—北海道七飯町のデイサービス「いちご農園」

能動的参加 生きがい



職員(中央)と一緒にメロンパンの生地を丁寧にこねる小西トキエさん(右)ら—堺市東区の「ふるさぼーとデイサービスセンター堺店」



高齢者が作ったメロンパン、抹茶、アールグレイ、チョコレート、プレーン、ブルーベリー&クリームチーズの5種類

話をもらっていただけだと返屈しちゃう。手を動かすと頭が活性化してほげないねと笑顔。80歳の三村京美さんは、売りの上げで仲間とお肉を食べるのが楽しみ。買ってもらう方には、ちゃんとした物を作らないとね」。

デイでは以前から、利用者がおやつや昼食のおかずを作

大切な方説する。施設の敷地内にある畑で野菜や果物を栽培して販売するデイは、北海道七飯町の「いちご農園」。利用者はイチゴの他、キュウリやトマトなどの野菜を農家の助言を得ながら育てている。

収益は参加した利用者へ還元し、現金を支給。利用者は、すしや焼き肉弁当を買って楽しんでいくという。運営する「ケアサービスダウン」の中村久子社長は「農作業を通じてリハビリや運動にもなる上、お客さんから『おいしかった』『ありがとう』と言われることで、生きがいになっています」と話す。

高齢者が障害者と共に商品を作って販売するデイも。熊本市南区の「サンフラワー」では、施設の敷地で栽培して余った有機野菜を有効活用し、よつと、ピクルスを作った販売している。収益は、高齢者の食費の減免や、障害者雇用の促進に充てられている。

「デイの運営会社代表、松本由美さんは「かつて料理をしていた人は、包丁を持つと生き生きとして、味についてアドバイスもしてくれる。作業をしながら昔話に花が咲くことで、脳が活性化するのは」と手応えを語る。

高齢期の社会参加活動と健康の関係を研究する千葉大学防医学センターの近藤克則教授は「高齢でも認知症でも、潜在的な能力がある。社会との関わり方を変えることで、その能力が発揮されることがあるため、大きな意義がある」と話している。

シニア図書室

「九十歳のラブレター」

加藤秀俊著

高名な社会学者である著者が、2019年に89歳で亡くなった妻との70年以上にわたる日々を繊細につづった自叙伝。上質な映画のような美しい試みから、書への深

「専業主婦

100年時代の人生

第2部「年金」

Q 専業主婦は年金加入資格が独特らしいね。

A 「第3号被保険者」のことですね。自営業や無職の人は国民年金の「第1号被保険者」、会社員や公務員で厚生年金に加入する人は国民年金の「第2号被保険者」に位置付けられます。この第2号被保険者に扶養されている年収130万円未満で20歳以上60歳未満の配偶者が、第3号被保険者と呼ばれます。うち99%が女性で、多くはサラリーマン世帯の専業主婦とみられます。

Q 主婦は年金で優遇されているとも聞きます。

はい、かと思いましたが、そこは「いり笑って」「幸子です」と答える。「あ、玲子だ。さっき、妙な物音がして不審者が侵入したから」とだけ言って部屋へ戻っていった。

朝食を食べながら「じがぼつり。最近、朝起きると自分がどこにいるのかが分からなくなる」「と、しんぼり。「あ、私もそれよくある。あれ、今どこにいるんだっけって思っちゃってしょ」と言っ「お前もか、じゃあ気にしないでいいよ。笑っているが、どこか不安そう、そんなじいじの様子を見て少し切なくなっていたのであった。」

(文・黒川玲子、イラスト・長谷川三雄)

生活情報

見えない者との戦い

認知星人「楽しむ介護」実践日誌

b16

わが家のじいじは、アルツハイマー星に住む認知星人。地球人の時はいたって普通の94歳。認知星のスイッチが入ると認知星人に変身し、私たちには思い付かないようなことを言いつて驚かせるのだが、今回は、ちょっと切ないお話。

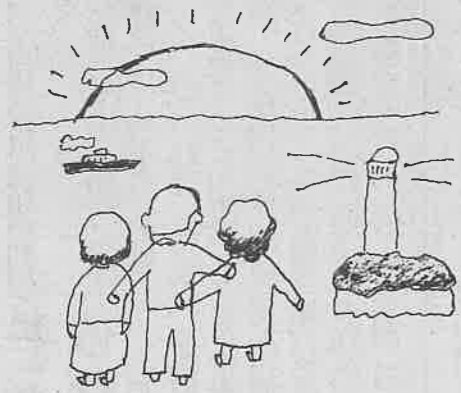
じいじは高齢者の割にはお寝坊さんである。よって、毎朝私の方が早く起きていたのだが、「この日はじいじの方が早く起

きていた。あら、珍しいこともあるものだ、と気にも留めず朝食の支度をしていたが、何やら背後から「すくはく、すくはく」とたまたならぬ気配。じいじが認知星人タースベーター版に変身している時の妖気である。

「おはよう」と振り向

「出ていけ、何をするんだ」と大声を出していたのを連夜勤ちゃん(娘)が発見し、理由を聞いたところ「小人が何十人も家の中にいて、大切なものを盗もつていて」と言っていたことを思い出した。その時、機転を利かせた連夜勤ちゃん、見えない小人さんを説得する演技をして、「もう二度とこの家には来ない」と約束したから、安心してね」と伝え、一件着した経緯がある。

もしかしたら、じいじは、私には見えない何かと闘っているのかもしれない。



俳諧絵馬への挑戦

第3号被保険者